

[日経ビジネスオンライン SPECIAL ロシア投資特集で MEJ が紹介されました。](#)

[PDF「Russia Japan report」の下にあるリンクをクリックしてください。](#)

以下に、日本語版を添付しますので、ご確認ください。

※禁無断転載：日経ビジネスオンライン SPECIAL ロシア投資特集より

## 日本の医療を国際展開する Medical Excellence JAPAN

### ロシアで進む先端医療センター設立プロジェクト



---

Medical Excellence JAPAN は、官民一体で日本の優れた医療を世界に展開する事業を推進している一般社団法人である。2013 年にロシア連邦のウラジオストクに画像診断センターを開設。さらに、がんの先進的な診断・治療を行う「ロ日先端医療センター（仮称）」の設立プロジェクトが進行中だ。その目的や活動、ロシアとの協力体制などについて、理事長の山本修三氏と理事の山田紀子氏に聞いた。

---

一般社団法人 Medical Excellence JAPAN（以下、MEJ）は、日本の経済産業省が 2010 年に実施した国際医療交流調査研究事業の外国人患者受け入れ支援活動を契機として、2011 年 10 月に設立された。

当初は、日本の医療機関で先進の治療を受ける外国人患者の受け入れ活動（インバウンド事業）を中心に行ってきたが、2013 年 4 月、日本の医療の総合的な国際展開（アウトバウンド事業）を主眼とする組織への改編を行い、新生 MEJ として新たなスタートを切った。

先端医療をはじめとする日本の優れた医療技術を、医療機器、医療サービス、システム、人材育成、病院システムなどとトータルのパッケージとして、政府、医療機関、医療関連

企業など“オールジャパン”の体制で世界に展開していく。

また、必要な医療人材の育成や内外への情報提供、広報活動などを、政府関係機関、医療界、産業界と連携して行う。さらに、従来からのインバウンド事業も引き続き推進する。

2014年3月現在、日本の有力67病院、企業37社にのぼるオールジャパン体制となり、業種も医療機器メーカーから銀行・保険会社まで幅広く名を連ねる。2012年12月に発足した第2次安倍政権では、医療産業の拡大を成長戦略の1つと位置づけており、MEJの活動への注目度は高い。

国際展開の対象地域として、特に力を注いでいるのはロシア、中東、アジア諸国だという。MEJ理事長の山本修三氏は、「質の高い“日本式医療”を、相手国が求める形にアレンジして提供し、医療水準の向上に貢献します。同時に日本の医療産業の成長を実現していきます」と語る。

ロシア極東地域における画像診断の拠点をウラジオストクに開設

2013年5月、MEJはアウトバウンド事業の一環として、ロシア・ウラジオストクでHOKUTO画像診断センターの開設、診療サービスの提供を支援した。同センターは、ロシア極東地域における画像診断の拠点として、CT、MRI、超音波診断装置などを備える。周辺の医療機関から依頼された画像診断を行うとともに、人間ドックを中心に検診事業を行っている。この画像診断センターには北斗病院（北海道・帯広市）が参画し、画像診断システム導入や現地スタッフの教育を担当している。



MEJ理事の山田紀子氏は次のように話す。「現地スタッフに帯広の北斗病院に来てもらい、医療に対する日本流の考え方や“患者中心医療”の重要性を学んでもらっています。その中には、患者さんへのきめ細かい対応や、インフォームド・コンセントを重視する姿勢なども含まれます。また、人間ドックを実際に受けることで、検診の大切さを理解してもらっています」。

ロシアでは、主要死因の55.9%は循環器系疾患であり、男性の平均寿命は64.04歳（2010年、ロシア連邦国家統計局）と、日本の79.94歳（2012年、厚生労働省）に比べて短い。

ロシアでは人間ドッグや検診を受ける習慣がないため、MEJ では検診など予防医学の重要性を訴えることで、ロシア国民の健康度の向上に貢献していきたいと考えている。

## がんの先進的な診療・治療を行うセンターをロ日共同で設立へ

2013年4月、ロシアで行われたロ日首脳会談において、日本の安倍晋三首相はプーチン大統領に対し、「ロ日先端医療センター（仮称）」案件について言及した。これはモスクワ市内または近郊にがんの高度な診断・治療を行う先端医療センターを開設するというもので、まずはPETによる診断と陽子線治療を行う施設を立ち上げる。将来的には最先端治療技術であるホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の臨床研究も行う構想だ。この事業は経済産業省の2013年度「日本の医療機器・サービス等の海外展開に関する調査事業」の一つとして採択された。

ロシア側の事業パートナーは原子力研究で世界的に名高い国立クルチャトフ研究所（National Research Center Kurchatov Institute）傘下の核医学研究所（Center for Development of Nuclear Medicine）。核医学研究所には病院施設がないので、ロシアのがん研究センターとも提携して事業を進める計画だ。

山本氏は、「私たちは、単にPETや陽子線治療装置を設置すればよいとは思っていません。どんなに先進的な設備でも、利用するのはあくまで医師です。現在ロシアで行われている医療に、日本のがん診断・治療の優れた面を取り込んでもらうことで大きな成果が上がる。医療技術や機器だけでなく、がん診療全般のノウハウまで提供していきたいと考えています」と言う。

2013年12月に茂木経済産業大臣が訪ロした際、MEJと核医学研究所は今後の協力に関する合意文書に署名した。現在はロシア側とタイムスケジュールを詰めている段階だ。

## 日本式医療をニーズに合った形で提供したい

MEJは2014年2月、調査事業の一環として、モスクワの日本大使館で「がんの先端診断・治療技術」に関するセミナーを開催した。来場者は157人で、ロシア側招待客が107人を占めた。

第1部の「日本とロシアの最新医療動向」では、国立がん研究センター東病院の秋元哲夫氏が「陽子線治療を中心とした粒子線治療の現況と将来展望」を、慶應義塾大学病院の後藤修氏が「胃癌治療における低侵襲手術の開発」について講演、参加したロシアの医師・

医療関係者から大きな関心が寄せられた。また、日本人間ドック学会理事である小山和作氏が「予防医学の重要性と人間ドック」について講演した際には、82歳になる同氏への拍手と称賛が鳴りやまなかった。

第2部では、「日本の最新の医療機器技術」と題して日本の医療機器メーカー6社がプレゼンテーションを行い、ロシア側来場者の強い関心を集めた。

山田氏は、「今回のロシアと検討している先端医療センターはがんに関するものですが、予防医学や循環器や糖尿病診療などの面で、日本から提供できるものは多いと感じました」と期待を口にした。

今後の事業の課題と展望について山本氏は、「ロシアとの事業では今後話し合いをより深めてロシア側のニーズをしっかりと把握し、適切なものを提供していきたいと思っています。日本の医療には高度な技術とホスピタリティ、チーム医療、丁寧な説明や処置など優れた点が数多くありますが、世界ではまだあまり知られていません」と指摘する。

そして、「今後は総合的な“日本式医療パッケージ”として輸出するとともに、外国の患者さんを受け入れるインフラも整備し、日本の医療の良さを世界に広めていきたいと思えます。また、留学生を受け入れ、高いレベルの人材を育成する仕組み作りも進めていきます」（山本氏）と述べた。

MEJが進めるロシアと日本の協力事業は、医療分野において大きな波及効果を生み出し、両国の絆を強めると期待される。